

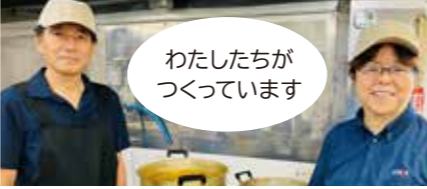
にぎわいおひるごはんの日

毎月第3・4・5木曜日は、「にぎわいおひるごはんの日」。カフェ店長経験者のにぎわいスタッフが監修した、素朴でお手頃なメニューをご提供します。丼物や定食のほか、日進市子どもたちが学校で食べている給食を再現した「給食ランチ」を提供する日もあります。ぜひお誘いあわせの上お召し上がりください。

1人前600円です。前日の11時までにご予約いただきますと確実にご用意できます。



最新情報はここから



わたしたちがつくっています

にぎわい NEWS

Vol.28
2024年



日進市にぎわい交流館
公式キャラクター「わいわい」

ワンディシェフ

11:30頃～

喫茶 喫茶の提供がない場合もございます。

ワンディシェフ募集中!

詳しくはにぎわい交流館まで。

第1木曜日 花菜豆

伝統和食の温かさと中医薬膳の奥深さをお膳で



第2木曜日 日進 LOVE ラボ 星のたね

みんなの「あったらいいな」をカタチにしてい



第1金曜日 オールフォーユー

旬の食材を使った家庭的でボリュームなランチ



土曜日 名古屋学芸大学 Canteen

管理栄養学部の学生が作るランチ



第2日曜日 日進絆子ども食堂

地域子どもたちと大人たちの居場所



第3・4・5木曜日 にぎわいおひるごはんの日 不定期 にぎわい喫茶 ワンディシェフの活動がない日はにぎわい交流館が提供します。

マーケット・ギャラリー

手作りの品・こだわりの逸品がお買い得!

マーケット 10:00～16:00

(時間は出店者により異なる場合があります)

月・火 ななサゴ

第1木 花菜豆

第2木 手作りサークル PiPpi・日進 LOVE ラボ

第3水・第2木 薔薇しかない花屋 Neo

第3・4木 スマイルハウス

第4水 ポレポレ

市民のみさんの力作を見に来て!

ギャラリー 8:30～20:00

(最終日は15:00まで)

9/2(月)～9/13(金) 新やまと文字「秋の作品展」

10/2(水)～10/15(火) and にこり日進「アートにきらめく子ども達!!」

10/16(水)～10/30(水) スマイルハウス「なごみ高齢者作品展」

11/2(土)～11/17(日) にぎわい文化部発表会

11/18(月)～11/29(金) koeni「子ども落書き大作戦」

12/2(月)～12/15(日) 花散里「シルバー写真同好会」

※ワンディシェフ・マーケット・ギャラリーの内容については変更になる場合もございます。ご了承ください。(2024年8月31日現在)

日進市にぎわい交流館

開館時間 サロン 8:30～20:00/会議室 9:00～20:30

休館日 年末年始(12月28日～1月4日)

〒470-0122 愛知県日進市蟹甲町中島277-1



電話 0561-75-6650

ファクス 0561-73-5810

電子メール nigiwai@me.ccnw.ne.jp

ウェブサイト https://shimin-kouryu.net



【特集】市民活動団体インタビュー

集まれ90代!



出原伸平さん



水谷淑子さん



渡邊仁司さん



島並小枝子さん

シニアアクティブライフを

Contents

- 【特集】市民活動団体インタビュー
- にぎわい掲示板
- ワンディシェフ・マーケット・ギャラリー

ご存じですか?厚生労働省の令和2年度の平均寿命ランキング(5年毎に更新)では、日進市は男性の部で全国で4位、愛知県で1位という長寿のまちであることを。高齢者が元気に暮らすことは周りの人たちやまちをも元気にします。今号では、90歳を過ぎても元気にイキイキと活躍する4人にお話しをお聞きします。太平洋戦争を経験し、懸命に生きた人生の先輩たち。楽しみながら日々を大切に生きるその姿は、生きるということ、人生の楽しみ方を教えてください。

※2024年8月31日現在の年齢を記載しています。

90歳
昭和9年
生まれ

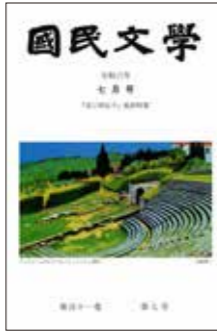
菖蒲の会

島並小枝子さん



継続は力なり。健康第一！

知人に日記代わりに短歌を詠まないかと誘われ入った菖蒲の会は、1998年から毎月、勉強会を開き、今年8月で310回目を迎えました。伝統ある『国民文学』にも入会し学び続けており、第一同人として籍をおいています。日々おきたこと、喜びや悲しみを五七五七七の31文字に表現し、人生記としています。



短歌誌『国民文学』にも掲載

『お絵かきの会』にも所属し、水彩絵の具で季節の花や果物などを描いています。依頼を受けて地域のギャラリーで展示もしました。相手を思い浮かべながら描いて、短歌や一言添えた絵手紙を送ると喜んでもらえるのが、楽しみの一つになっています。

45歳から13年間、新聞社のホームレポーターをしていました。記者の目の届かない地域情報を取材して、記事と写真を届ける仕事です。自転車で日進界隈を取材に走り回り、やっとの

思いで書き上げた記事がボツになることもありましたが、それでも、記事を読んで「良かったよ」と多くの方が喜んでくれたことが嬉しくて励みでした。投稿した記事は大切にファイルしています。これは、ホームレポーターとしての功績を新聞社から表彰していただいたことと共に、人生の宝物です。

「天賦の才より努力。努力を惜むな」亡き夫がよく言っていた言葉です。継続は力なり。これからも健康第一に、みなさんと仲良く楽しく生活し、短歌と絵を続けていきたいと思えます。



島並さんの絵手紙

93歳
昭和6年
生まれ

日進植物画教室 / 日進自然観察会 / 天白川で楽しみ隊

渡邊仁司さん



充分以上にやりたいことができた。 二度とない人生を楽しむ！

81歳のとき妻に先立たれ、追悼本を自費出版しました。それから本を作り続け、今年8作目となる『日進植物画教室』を出版することができました。日進植物画教室は講師を務めて12年。植物の詳細な線画を基本に、会員の方は自由に作画しています。本には、12年の歴史をまとめました。

市民活動30年の中で心に残るのは、平成14年に日進市民会館で開催した「第11回 湿地サミット」で、シンポジウム形式で討論したこと。市制20周年記念式典で個人として功労賞を、令和4年には天白川で楽しみ隊が日進市から市制功労賞を、令和5年に愛知県から環境保全功労賞をいただいたことは嬉しいできごとでした。

名古屋で生まれ、尾張徳川藩士の子孫14代目として、剣道・柔道・書道・絵画・算盤など文武両道の教育を受けて育ちました。

小学4年生のときに太平洋戦争が始まり、成年男子は戦場へ行

き、私も中学1年の夏から学徒動員で工場に入り、ゼロ戦の部品を作りました。昭和20年の名古屋大空襲では実家を焼失し、8月15日の昭和天皇の玉音放送で終戦を知りました。

戦前、戦中、戦後の激動の時代を生きたこと、本の出版でその片鱗が記録できた、充分以上にやりたいことができたと感じています。それぞれの時を大切に全力で生きてください。二度とない人生を楽しみましょう。



今年8月に出版した『日進植物画教室』

91歳
昭和7年
生まれ

日進里山リーダー会 / 天白川で楽しみ隊

出原伸平さん



自分の信念には正直に 人の意見には耳を傾ける！

日進で生まれ育ちました。定年退職後の税に関するできごとをきっかけに、活動を始めて25年になります。法の壁に阻まれ、理不尽さを感じながらもあきらめるしかなかった経験から、何事も関わってみないとわからないし、意見も発信できないと思いました。

これまでに「地域福祉計画を進める市民会議」「日進市自治基本条例策定委員会」などの委員も務め、現在は戦争の語り部としても活動しています。

日進市自治基本条例策定時には、国、県、市各々が対等の立場で意見を言うようにと条例に「対等の立場で」の文言を入れるように要望し、若い頃には戦後の民主主義の時代に坊主頭を強要するのはおかしいと商社の合格を辞退しました。学生時代に受けた教育「民主主義の確立」が、今も変わらぬ人生の信念で、常にその信念に従っています。

小学3年生のときに太平洋戦争が始まり、国の軍事教育によ

り、竹やり訓練や勤労奉仕のために勉強もできなくなりました。県道や校庭で米軍の戦闘機の襲撃にあったこともあります。「ダッダッダ」機銃掃射の音にみんな震えて顔色が蒼白となり、もう駄目だ死ぬなと思いました。こんな経験は二度としたくない。

戦争は人と人との殺し合い、もう絶対にしてはいけません。そのことを伝えるために、健康が続く限り語り部として戦争体験を伝えていきたい。そして日進の文化も伝えたいと思っています。



にしん平和のつどい 2024 「語り部講演会」の様子

91歳
昭和8年
生まれ

にぎわい句座 / 日進俳句同好会 綺羅句会

水谷淑子さん



一日一日を精一杯 はつらつと生きる！

俳句はにぎわい句座を主宰し、日進俳句同好会 綺羅句会にも所属しています。エッセイ教室は20年になり、ブログは2007年から始め、気の向く程度に更新しています。

小学3年生の時に太平洋戦争が始まり、校庭を畑に変えてさつまいもを植えたり、川原に稲を植えたりしました。薪は背負って何度も山から運びました。小学生といえども安閑と勉強してられない、そんな時代を過ごしました。

終戦は女学校1年生の時。教科書にはアルファベットが表記されるようになり、新憲法が発表されても大人のようにすぐに切り替えができずに悩んだものです。

日進に越して来たのは子ども2人がまだ小学生の時。夫婦懸命に働き、孫5人、曾孫も5人の今があります。

俳句を始めたのは夫を亡くして間もない頃で、俳句教室の生

徒募集の新聞記事が目にとまり応募しました。教室を卒業後、卒業生の3人と「にぎわい句座」を立ち上げました。

俳句もエッセイも楽しみながら日々、研鑽を積んでいます。自費出版したエッセイ集『おにゆりの苑』は全10作。句集は『ひばり』『異空間』の2作です。これからも俳句を作り、エッセイを書き、ときどき旧友や句友、娘や息子、孫や曾孫とのデートを楽しみ、週に1回デイサービスにも通いながら、一日一日を精一杯はつらつと人生を終えていくつもりです。



エッセイ集『おにゆりの苑』